S I A S R

(Saitama Infectious Agents Surveillance Report)

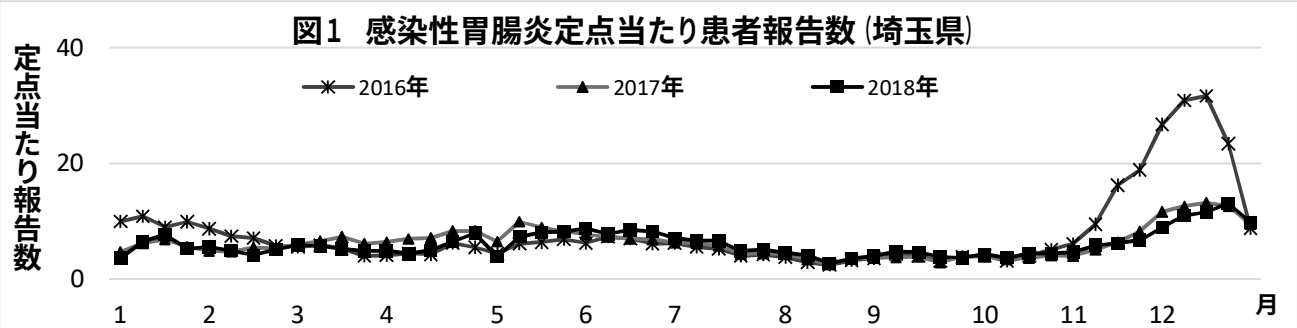
Topics Vol. 27　　H31 年 3 月 6 日

Vol. 26 は 2018 年第 52 週報に掲載

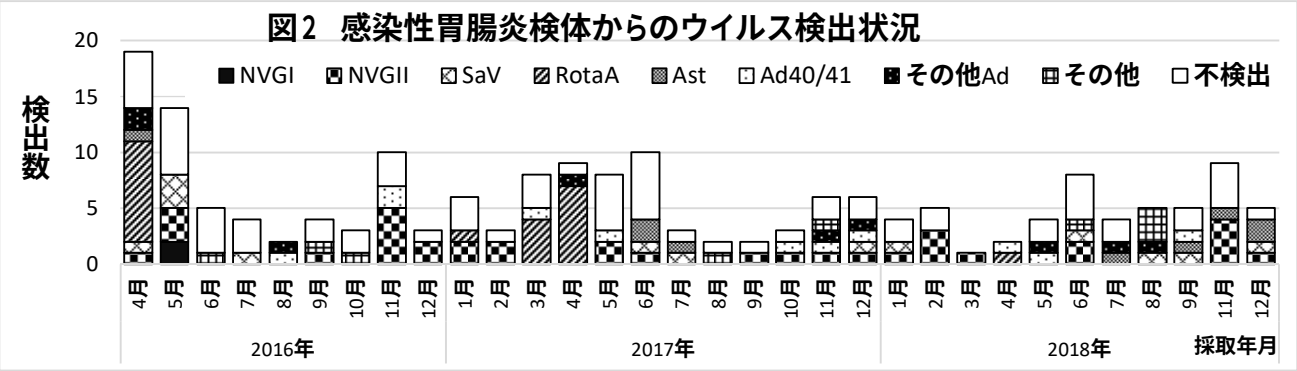
感染性胃腸炎からのウイルスの検出状況

感染性胃腸炎は細菌又はウイルスなどの感染性病原体による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。近年の感染症発生動向調査における定点当たり患者報告数では 2016 年 11 月から 12 月にかけて患者数が大幅に増加しましたが、その後大きな流行は見られていません（図 1)。

今回は 2016 年 4 月から 2018 年 12 月に定点医療機関から埼玉県衛生研究所に搬入された感染性胃腸炎患者から採取された 173 検体のウイルス検査状況について報告します。搬入検体の患者の年齢構成は、0 歳 41 人、1 歳 60 人、2 歳 21 人、3～9 歳 25 人、10～19 歳 11 人、20 歳以上 15 人でした。



173 検体のうち 101 検体からウイルスが検出され、その内訳はノロウイルス GenogroupI（NVGI）が 2 検体、ノロウイルス GenogroupII（NVGII）が 35 検体、ロタウイルス A 群（RotaA）が 22 検体、サポウイルス(SaV）が 13 検体、アストロウイルス（Ast）が 9 検体、アデノウイルス（Ad）40/41 型が 11 検体、その他の型の Ad が 9 検体、その他のウイルスが 9 検体でした。8 検体からは 2 種類以上のウイルスが検出されました。患者報告数が急増した 2016 年 11 月から 12 月にかけて搬入された 13 検体から最も多く検出されたのは NVGII（7 検体）でした。また、RotaA が検出された 22 検体のうち 21 検体は 3 月から 4 月にかけて採取されており、RotaA の流行には季節性があると考えられます（図 2)。



今年も 3 月に入り、ロタウイルスによる感染性胃腸炎の流行が予測されます。病原体定点の先生方におかれましては、今後も検体採取にご協力お願いします。